～かんなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～

つながる

函南町幼児教育センターだより５号

令和６年４月発行

連絡先　学校教育課内
幼児教育センター

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため

前号では、『保幼こ小連絡会』を年間3回実施していることをお伝えしました。

文科省は、幼児教育と小学校教育のさらなる円滑な接続を図るために、架け橋期の教育の充実を審議しています。今年度函南町では、8月の連絡会で小学校区のグループで接続期のカリキュラムを作成し始めました。

今回は、架け橋期の教育の充実に向け、函南町が今後どのように取り組んでいく予定かということも含めてお伝えします。

12月5日小中教頭研修会

福井氏講話の様子

園と学校の接続期の教育についてどのように推進していくのか、函南町としての方策を考えていく必要があります。

そこで8月1日の接続研修に引き続き、12月5日の教頭研修会で、町内小中学校教頭先生を対象に県教委幼児教育推進室長の福井孝子氏を招へいし、架け橋期の教育の充実を図ることの重要性について講話していただきました。

福井氏は、「園小中12年間でどういう子供を育てるかを目指したい」「学校全体として動いていかなければならない」という根本的な考えを基に、国の動向・県の事例を紹介しながら具体的な方策や手法についてお話をしてくださいました。

（1）国の動向より【令和5年2月27日　中央審議会より抜粋】

・幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、全ての子供に等しく機会を与えて育成していくことが必要。
・幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。
・5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期の教育」の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要。
・こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら、全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保証していくことが重要。

これらを踏まえ、以下の方策を推進

QRコードは中央審議会概要版です

方策1　架け橋期の教育の充実

①子供の発達の段階を見通した架け橋期の教育の充実
・幼保小が意識的に協働して「架け橋期」の教育を充実
・幼児教育施設では、小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力を育み、小学校においては、幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施。

②架け橋期のカリキュラム作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立

(2) 接続期カリキュラム開発会議の目指す方向性

・5歳児～小学校1年生の架け橋期だけではなく、0～18歳の学びの連続性に配慮する。

・遊びを通した学びの教育的意義や効果の共通認識を図る。

(3) 幼児教育と小学校教育の相違点、共通点

	幼児教育	小学校教育
目的論	方向目標中心 (～するようになる)	到達目標中心 (～ができる、分かる等)
方法論	間接教育中心 経験カリキュラム	直接教育中心 教科カリキュラム
評価	個人内評価	評価基準を前提とした 絶対評価
共通点	「育みたい資質・能力」 「主体的対話的で深い学びの実現」	

【接続期の重要性】
学校での学力や、その後の社会生活での差は、認知能力であるIQではなく、非認知能力GRIT(やりぬく力)が影響を及ぼしている。
(ペリー就学前プロジェクトより)
小学校入学当初は、主体的に自己発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期である。幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動を実施することが大切である。

(4) 幼保小が協働して架け橋カリキュラム作成のために、前提として取り組んでおきたいこと

①各園・所・校において、要領・指針の理解に基づいた上で、地域や子供の実態に即した教育課程を編成している。

② 保育者と小学校教員が、互いの教育・保育や子供の発達の過程等について要領・指針の理解に基づいた理解をしている。

③ 幼保小が協働するための体制(会議体等)が整っている。

(5) 架け橋期のカリキュラム作成手順(例)

① 地域や保護者の実態や願いも踏まえ、地域で「育てたい子ども像」を共有する。幼保小協働

② ①を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手がかりにして、架け橋期において、期待する子ども像、育みたい資質・能力を明確にする。(ステージ(期・学年)毎に)幼保小協働

③ ②に迫るための主な園での活動や小学校での生活科等の単元を選定する。幼保小協働または各園・校

④ ③で設定した活動や単元について、教師の意図や願い、指導上の留意点(環境構成や援助・支援のあり方、教材・教具、子ども同士の交流)を具体的に考える。幼保小協働または各園・校

⑤ 実践後、評価をし、改善する。幼保小協働

(6) 相互理解の方策のためには、

・保育者と小学校教員が合同研修会を実施する。

・効果的な幼保小合同研修会を進める。・・・　保育参観+事後協議が望ましい。

福井氏の講話では「幼保小」と使っていますが、函南町では「保幼こ小」と使っています。

1月18日主幹・教務主任研修会

小学校毎のグループに分かれ、園と小学校との接続について意見交換をしました。園の先生からは、「連携を図りたいが、小学校の授業や忙しさを考えて、気が引けてしまう。」という声が出ていました。

コロナ禍の影響やお互いの行事のやりくりなどで、以前交流していたことができなくなり、その状況が続いていますが、先生方からは、前向きな意見が多く出ました。

・年度当初に顔見知りになることで、話がしやすくなる。

・接続窓口担当が決まればつながりやすい。

・小学校の先生に、気軽に園の様子を見に来てもらえると、具体的なお話ができると思う。

・生活時間が違うので小学校の校庭で遊ばせてもらうことが、少しためらう。園児が小学校のグラウンドで遊ばせてもらったり、ふらっと寄ったりする

グループ意見交換の様子

など、コロナ前に戻せるとよい。また、小学生も園に気軽に寄ってほしい。
・コロナが落ち着いてきたので、小学校との交流の場を持ちたいが、授業の差支えにならないかと思うと、声をかけにくい。
・園で小学校生活に向けての活動や準備をしっかりと行っているので、小学校生活にスムーズに入れそうです。特に生活科の学習とうまく繋げられるとよい。
・園と学校とで、メール等のやり取りができるシステムがあるとありがたい。

中学校の先生からの意見

「個別最適な学び」「協働的な学び」の原点が幼児教育にあると考えているので、直接、幼稚園保育園の先生方が、どのようなことをしているのかを聞く（確認する）ことができ、うれしく思いました。
幼稚園保育園の先生方は、子供たちの様子を日々観察し、子供たちが「したい（主体性）」を事細かに把握されています。子供たちの「したい」を実現させるために、様々なモノ（中学でいうと、学ぶ方法等）を用意されています。
これまでの学校教育である、教師が主役の「どう教えるのか」「何を教えるのか」から脱却し、「どう学ぶのか」「何を学ぶのか」という子供が主役の教育に転換をはかるため、我々教員は授業スタイルを大きく変えなければならないと思います。
　規律も大切です。しかし、学校のステージが上がるにつれ、子供の「したい」が消されてしまっているのではないかと感じました。教育は自律的学習者を育成するためのものなのに、自分で決めることができない子供。家庭や学校を今一度見直す必要があると考えます。たいへん充実した時間になりました。
　幼稚園保育園の先生方に感謝します。

5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期の教育」の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくること、全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保証していくことを目指し、函南町教育委員会では、令和6年度から「保幼こ小の接続委員会」を設置し、町教育研究会と連携し、架け橋プログラムを推進していく計画を進めています。これから提案していきます。

2月9日函南町指定園公開保育

保育後のご指導の様子

2月9日、春光幼稚園において町指定研修公開保育が行われ、町立幼稚園・保育園・こども園・組合立、私立保育園、小学校、中学校の他、伊豆市・伊豆の国市・清水町からも参観がありました。
春光幼稚園の研究テーマ「主体的に生活する子を目指して」に沿って、年少・年中・年長の3クラスの保育が公開されました。
公開保育後、守巧氏（こども教育宝仙大学教育学部教授）が、その日の保育についての質問を受け、それに対するアドバイスをしてくださいました。
・聞く力が弱い子は話す力もないので、座り方（体操座り）が二重苦になっている。椅子を使っていいなど、他の子とは違う言葉かけや関わりが必要だということ。周囲の子が理解するようにすること。予備軍が、気になる子の方へ行かないような方法を考えること。
・言葉よりも先に手が出てしまう子供への対応の仕方。（年中）そういう子にとって、集団で遊ぶステージは段階的に早い。一人で遊ぶ場所を保障し、そこで心地よく遊べる、自分の遊びを誰も邪魔しないという経験をさせる。年中という発達段階上、友達を叩きそうになったら担任が入って止める。
「今、我慢できたね。」と我慢したことを実感させる。保護者にも我慢できたので家でも褒めるようにと話す。その繰り返しで少しずつ成長していく。
☆どの子も心地よく集団に参加できる方法を考えた方が良いと、教えていただきました。

講演会の様子

午後は『すべての子どもにインクルーシブな保育を』という演題で講演していただきました。特に「多様性を前提とする発想の転換が大事である。」という趣旨で、以下のことについて、ご自身の保育者としての経験を例に挙げながら、分かりやすくお話してくださいました。

・一人一人違う子が、豊かな園生活を過ごすためにどうしていったらよいか。
・一律に同じ時間で同じ内容同じやり方を考えない。これでは注意することが多くなり保育が厳しくなってしまう。
・保育者と子供との関係性が大切。観察し、ポジティブな情報を集め、関係性を良くする。

研修発表の様子

参加者の感想から

<保育活動について>

・子供たちで遊びの準備から片付けまで行っていて、先生に依存しすぎず主体性が育っていることに驚きました。伸び伸びやりたい遊びを楽しんでいる姿が見られ、たいへん勉強になりました。
・子供の興味に合った遊びがたくさんあり、保育室の環境も素晴らしかった。
・3.4 歳児は、環境を生かして自分の興味をもった活動を行っていたため、環境整備の大切さをあらためて感じました。
・5 歳児は、一斉の活動でしたが、個々に見ると自分の興味に基づいた活動にも思えました。
・個別最適な学びになっている園での教育を小学校においても、接続する必要性を感じました。

<振り返りの会について>

・参加された先生方の積極的な発言があり、笑いがある楽しい振り返りの会だったと思う。
・良いところがたくさん挙げられていて、自分もやってみたいと思いました。

<講演について>

・守先生の現場での子供の姿を織り混ぜてお話ししてくださったので、「この場面私も経験したことある」と、共感しながら聞いていました。
・大変有意義な時間を頂きありがとうございました。見守りの時だいたいネガティブなところばかり見てしまいがちですが、ポジティブなところをたくさんほめてあげることはもっともなことだと改めて考えました。安心から自信につながっていけるような支援ができるよう、また気になる行動に注目し過ぎないこと、居場所があるかなどもこれからも注意して保育に関わっていきたいと感じました。

振り返りの様子

<分科会について>

・他園や他市町の現状や工夫していること、語り合いの工夫を聞くことができ、自分でもできそうなことはやってみようと思いました。

<その他>

・町の指定を受けテーマの下、公開保育を実践することは、とても大変で負担が大きいですが、先生方がその価値を実感すれば、明日への意欲につながります。そのような会になっていたと思います。

情報交換の様子

3月27日保幼こ小連絡会

年度末のお忙しい中、出席いただきありがとうございました。
「園での様子や友達との関わりなど子供の表れを分かりやすく伝えて頂いた。また、保護者の方や家庭環境の変化などの情報も教えて頂けてよかった。」「学校から聞きたい子について教えていただいたので、伝えやすかった。」「資料に大まかな特性が記入されていたので、情報交換に役立った。」「入学後に本人がつまずくであろうことを、伝達できるのでありがたい。このような場を設けることは今後も必要だ。」という意見が寄せられました。限られた時間内でしたので、十分でない点は、学校と園とで連絡を取り合って情報交換をしていただけると、ありがたく思います。